

感染研市民セミナー(第36回)

「暮らしに役立つ病気の知識」

インフルエンザ:どこが違う?今シーズンのワクチン

国立感染症研究所(村山庁舎)では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「暮らしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

今、まさに流行のピークを迎えている季節性インフルエンザは、毎年1300万人以上が罹患し多くの健康被害を出しています。昨シーズンはA(H3N2)(いわゆる香港型)ウイルスの変化により、ワクチンとのミスマッチが起こりワクチン効果が低かったと言われています。これを改善するために、今シーズンは2種類のワクチンウイルスが変更されました。さらにB型ウイルスに対する守備範囲を広げるために従来の3価ワクチンにB型ウイルスをもう1種類追加した4価ワクチンになりました。これによって、ヒト社会で流行するすべてのインフルエンザウイルスに対抗できるようになりました。

本講演では、インフルエンザおよび流行ウイルス、新規のワクチンについてお話をいたします。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師:小田切 孝人
(インフルエンザウイルス研究センター長)

(質問コーナーもあります。)

日時:平成28年2月6日(土)

10:00~11:15(受付は9時半より)

場所:国立感染症研究所村山庁舎

参加費:無料(申し込み不要)

お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315

